

みなかたはつでんしょしゅすいえんてい

# 南向発電所取水堰堤

中部地方の  
選奨土木遺産

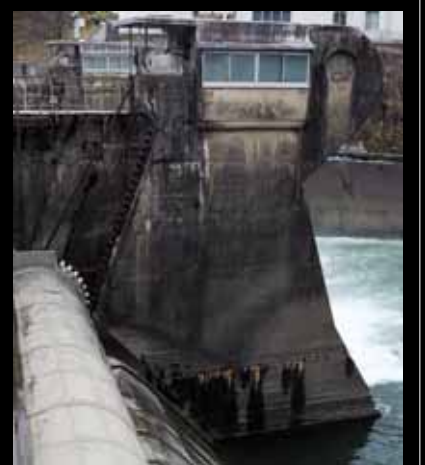
所在地：長野県駒ヶ根市中沢 竣工年：1929（昭和4）年  
管理者：中部電力（株）

認定理由：昭和初期に11km離れた水力発電所へ導水するために建設された、ローリングゲートと調和するゲートピアが個性的な堰堤である。

平成27年度登録



施設全景。R型のピアと回転しながら上下するドラム型の堰が特徴。



R型ピア上部の室内には巻揚機が設置されている。これによりワイヤーロープを操作し鋼製ドラムを回転させながら上げ下げ（輾動）する仕組みになっている。巻揚機の動力は、現代のものに取り換えられているが、機構はそのまま使われている。

◀ 下流からみた堰堤の風景。左3門は閉じ、右1門を開いている状態。最右部は魚梯（魚道）、最左部に見える小さな穴は流木路（かつて材木を川に流して運んでいた）。

第一次世界大戦後に急増した電力需要に対して、河川の本流を堰き止めて大規模に行う水力発電建設が盛んになっていた。それまで支流の発電を行っていた伊那谷の天竜川においても、大正末には本川の発電用水利権の出願が続出する。それらを取りまとめたのは、中部地方において精力的に水力発電の開発を行ってきた福沢桃介であり、彼のもとで天竜川電力株式会社が設立された。まず上流に大久保発電所を建設して準備を整え、次に建設されたのが南向発電所である。この建設が福沢桃介の最後の事業になった。鋼ドラムによるローリング・ゲートの堰堤。必要な機能 را収めるフォルムが慎ましい装飾と一体になっており、デザインの円熟が感じられる。

